

DIAMレポート 「外国株式の市場下落要因と今後の見通しについて」

最近の市場動向

◇8月9日、世界各国の株式市場が大きく下落いたしました。最大市場である米国市場ではNYダウが2.83%、S&P500指数が2.96%の下落でした。欧州市場においてもダウ欧州株価指数は1.78%の下げとなっています。米国市場は、今年2月の世界同時株安以降で最大の下落幅となりました。

◇きっかけは、昨日の欧州市場でフランスの大手銀行が傘下のヘッジファンド三本の資金移動を凍結したことです。これらのヘッジファンドの資産残高は約20億ユーロ(約3,200億円)と推定されています。大手銀行は、凍結の理由について、サブプライムローン(信用力の低い顧客に対する貸出)問題を発端とした信用市場の混乱により、保有資産の適正な評価が出来ないためとしております。これを受けて信用リスクが急速に高まり、ロンドン市場での銀行間翌日物貸出金利が急上昇しました。

◇ECB(欧州中央銀行)は、この事態に対応するべく、総額約948億ユーロ(約15兆4000億円)の資金の緊急供給を決定しました。サブプライムローン問題が、資本市場全体のクレジット・クランチ(信用危機)につながる事を防ぐべく先手を打ったものです。この動きを受けて、米国のFRB(米連邦準備理事会)、カナダ中央銀行も資金供給について各国中央銀行と連携する声明を出しております。

◇ECBの資金緊急供給は、2001年の米国同時多発テロ以来の金額であり、事態の重大性への懸念から、株式などのリスク資産からの資金退避の動きが顕著となりました。このため、欧米の株式市場は大きく売り込まれ、ほぼ全面安の展開となりました。

今後の見通し

◇今後の外国株式市場の見通しについては、短期的には引き続き値動きの荒い展開が続くと思われま。一連のサブプライムローン問題は、サブプライムローン固有の問題というよりは、サブプライムローンが証券化され、資産担保証券として多くの機関投資家や金融機関に販売されている点にあると考えています。これにより、サブプライムローン自体の損失は分散化されますが、一方で多数の投資家へ販売されているため、損失を被る範囲の確定が困難になるという問題が起きています。今後も、このような資産担保証券への投資損失のニュースが出てくる可能性があります。各国の中央銀行が迅速な対応を行っており、クレジット・クランチのリスクは低いと考えています。

◇一方で、企業の業績については引き続き堅調であり、今後の見通しも良好です。また、長期金利も再び低下傾向にあり、株価のサポート要因となっています。以上の点から、外国株式は中期的には上昇基調を続けるという見方は変更しておりません。

本資料のコメントはあくまでも作成日時点のものであり、将来変更する可能性があります。また、市場動向や個別銘柄の将来の動向を保証するものではありません。

興銀第一ライフ・アセットマネジメント

本資料は興銀第一ライフ・アセットマネジメント(株)によって情報提供を目的に作成された資料であり、証券取引法上の開示資料ではありません。また、投資信託の購入やその他の投資を推奨するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成したものです。当社がその情報の正確性、完全性等を保証するものではありません。本資料のコメントはあくまでも作成日時点のものであり、将来変更する可能性があります。また、市場動向や個別銘柄の将来の動向を保証するものではありません。